



祝 辞

立山ロータリークラブ
会 長 八十島 輝 夫

本日、湯河原ロータリークラブにおかれましては、創立45周年を迎えられ誠に、おめでとうございます。立山ロータリークラブの会員を代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

45周年という長い歴史と伝統をお持ちの湯河原ロータリークラブの皆様が残された地域社会に密着した奉仕活動の実践の数々をお聞きしそのご苦勞に対して敬意を表す次第です。

2005年8月3日富山県立山町と神奈川県湯河原町が姉妹都市になったのを旗にお互いのクラブの間に理解と友情の輪を広げ且つこれを深める為友好クラブの関係を締結いたしました。

以来、今日に至るまで、それぞれ合同例会を開催し、楽しい思い出の一時を過しました。

こうした親睦交流を通じながら私達は、ロータリーの目的である「奉仕の理想」を、勉強

してきた様に思います。

今後とも末長く御交際いただき、また御指導を賜りますようお願い申し上げます。

創立45周年を機に、貴クラブの限りなき前進と御発展を祈念し末永い友好をお願いして御祝いの言葉とさせていただきます。



湯河原ロータリークラブ 創立45周年を祝して

湯河原町長 米岡 幸男

湯河原ロータリークラブ創立45周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

また、これまでクラブの充実・発展に貢献されてこられました歴代会長はじめ関係者の皆様に深く敬意を表します。

真実かどうか

みんなに公平か

好意と友情を深めるか

みんなのためになるかどうか

このような心を持つことが、社会に奉仕するロータリアンの必須条件だと言われますが、私も町長就任以来、12年間、たえず自問自答してきた事柄のような気がいたします。

ロータリークラブの皆様には、各分野でご活躍される一方、この四つのテストを基本理念に、町のため、町民の皆様のため、温かい心で福祉の向上、地域社会の発展に多大なご尽力を賜りました。

心より感謝申し上げます。

町を取り巻く環境は依然厳しく、地方分権一括法施行から早7年になるものの、国からの権限や税源移譲は遅々として進まず、自治体が地域の実情、特性にあった施策を展開したくてもできない厚い壁となっております。

また、新たな枠組み、地域づくりの検討が急ピッチで進んでおり、本年2月、県西地域

合併検討会が設立されましたが、本町では前回の協議を通して培った経験を基に、町民の皆様にとって最善の地方自治を実現するための将来像を描き、進むべき方向を明確にしていまいりたいと考えております。

もちろん、合併の有無にかかわらず、激化している地域間競争に、湯河原が埋没しないよう、なお一層「魅力あるまちづくり」にまい進いたします。

幸いにも四季彩のまちづくりが所期の目的を達成。また、町立美術館・独歩の湯開設、文学賞創設など恵まれた自然と歴史、文化を活かしたまちづくりの基礎を構築することができました。今後は、全町を網羅する遊歩道整備計画の早期完成を目指し、町全体が癒しとふれあいの場となるよう努めてまいります。

難題に直面しても町発展の好機ととらえ、あきらめることなく、夢と誇りを失わない、湯河原をこよなく愛する皆様とともに、品格のある元気なまちをつくりあげてまいりたいと思います。

ロータリークラブの皆様には、今後も町発展のため、なお一層のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴クラブのご繁栄と皆様方の御多幸を祈念し、お祝いの言葉といたします。



湯河原ロータリークラブ 創立45周年お祝いの言葉

神奈川県議会議員 向 笠 茂 幸

湯河原ロータリークラブが創立45周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

国際ロータリーから認証を受領されてから45年という長い歳月を重ねてこられた湯河原ロータリークラブは、この間、奉仕の理念に基づき、各界との連携を保ちながら順調な発展を遂げられ、ひいては、国際間の親善を深められましたことに敬意を表するものであります。

また、多年にわたり、教育・社会福祉の向上、交通安全対策、環境保全など、地域社会の発展に多大な貢献を賜りました。心より感謝申し上げます。

さて、我が国は今、政治、経済、社会のあらゆる分野において大きな変革期を迎えております。

特に地方分権につきましては、昨年3月、三位一体改革関連法が成立するなど、地方の自己決定権と自己責任の拡大等が図られ、二元代表制の一翼を担う議会の果たすべき役割と責任はますます重要性を増しており

ます。私も地域住民の代表機関の一員として、885万県民の皆様の意見を県政に反映させてまいりたいと、決意も新たにしております。

また、湯河原におきましても地域経済の活性化や安全で安心なまちづくりなど、多岐にわたる課題も山積しており、活力、そして、魅力にあふれたふるさと「かながわ」の創造を目指し、ロータリークラブの皆さまのご協力もいただきながらこれからも全力を傾注してまいります。

ここに謹んで創立45周年をお祝いし、貴クラブのますますのご繁栄を祈念するとともに、今後も県、そして、湯河原町発展のため、なお一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます、お祝いのことばといたします。



子ども達と植えたもみじ

湯河原町教育委員長

多田 宏

(元湯河原R.C.会員)

湯河原小学校の子ども達と湯河原ロータリークラブの会員が、仲良く納まっている一枚の写真がある。それぞれの表情は、もみじの植樹を成し終えた満足感に溢れている。

平成17年、湯河原町は町村合併50周年記念の一環として、町民による“もみじ”の植樹計画を推進していた。

当時、湯河原ロータリークラブ（菅原保会長）は、社会奉仕活動として、地域のニーズに応え「もみじの植栽」に協力することを計画していた。最初は、会員のみで協力しようとしたが、町の将来を担う子ども達と一緒に植樹することに意義づけをし、湯河原小学校に協力を依頼した。

福井堅二校長は、環境教育の一環として、またとない機会なので、是非、児童を参加させたいと理解を示してくれた。

早速、菅原会長、伊藤社会奉仕委員長、高橋社会奉仕委員ともども、学校に赴き草柳教頭、奥津学年主任をまじえて、日程及び内容について打合せを持った。

1. 期日は、12月9日
2. 「総合の時間」等を活用し、給食の時間までに帰校」する。
3. 参加学年は、4年生とする。
4. 30本の若木を4人グループで植樹。
5. バス3台は、湯河原R.C.が手配する。
6. バスの乗降、山道の危険箇所には会員を配置する。

12月9日、曇天ではあったが、119名の4年生は3台のバスに分乗し、学校を出発した。バスに同乗したが、子ども達の元気な挨拶

と明るい笑顔に心地よさを感じた。

池峯の登り口に到着後、会員の誘導で登り始める。下見に来た時は、マイペースで登ったが、今回は、子ども達のペースに合せなければならない。子ども達とおしゃべりをしながら登るのであるが、子ども達の元気な歩きには、ついていくのがやっとであった。細い山道の落ち葉を踏みしめ、心地よい汗をかきながら池峯「もみじの郷」に着いた。

以前からある数本のもみじは色付き始め、山ゆえのひんやりとした空気が気持ちよく頬をなでるのであった。

小休止をした後、造園業の職人さんから、植樹の方法を教えてもらい、グループごとに作業を始めた。あらかじめ掘っておいた穴にもみじの若木を埋め込み土をかける。単純な作業ではあるが、子ども達にとっては初めての体験である。顔に土をつけながら、一生懸命な姿を見ると、子ども達と協働の作業が出来て良かったとつくづく思うのであった。

子ども達は、ゲームに興じた後、記念写真に納まり、軽い足取りで下山を始めた。

子ども達が植えた30本のもみじは、昨年見事な紅葉で池峯の山を彩った。

湯河原は、自然に恵まれているとは言いながら、少しずつ昔の面影がなくなりつつある現在、地元のニーズに応え、ロータリークラブの会員が、子ども達と共に自然環境の保全に役立てたことは嬉しい限りである。

4年生だった子ども達も6年生になった。

紅葉の頃、自分達の植樹したもみじを家族と見に行っていきたいと願っている。



佐 東 丈 介

2002～03の会長ということは、まだ湯河原クラブに入会してから10年ほどで、ロータリーのことが分からない時期でした。多くのことを諸先輩方のお力を借りて進めた事が思い出されます。前の年に創立40周年記念式典を無事終え、今年度はたいした行事もないと安心していたところ、2003年1月から1年間、オーストラリアからの青少年交換留学生をクラブで受けることが決まりました。以前にもカナダからの男子をお世話したこともあったので、何とかなるだろうと思っていたのです。しかし今回は女子ということもあったのか、前回のように簡単にはいかなかったことを覚えています。

前回と一番違ったことは、パソコン、携帯電話の存在がありました。母国の両親ばかりでなく友達にも簡単に連絡が取れ、

ホストファミリーや日本人の学友とはそれほど親しくなれなかったようにも思われました。

いろいろと困ったことがあったときに相談に乗ってくれたのは、家族はもちろんですが、ロータリーの仲間でした。親身になって心配くれたことが特に嬉しかったことでした。青少年交換学生制度は、ロータリーの中でも価値あるプログラムの一つですから、是非続けて行きたいものですが、その時期にあったルールが必要だと思いました。

しかしこのような経験も、素晴らしい仲間と共にできたことは、私にとって貴重な一年間でした。ロータリーの友と難問題にぶつかったり、わいわい楽しく飲んだりできることは、人生の中のオアシスの一つと感じています。



会長時の思い出 2003～2004 (平成15～16)



平間章弘

2003～04年度、国際ロータリージョナサン・B.マジアベ会長のテーマは“手を貸そう”でした。そしてこの時のR.I.の目標が

1. あなたのクラブに手を貸そう。
2. あなたの天職に手を貸そう。
3. あなたの地域社会に手を貸そう。
4. 世界に手を貸そう。

でした。

新年度第一例会では、今年度の会長高杉尚男さんが幹事として完璧に補佐女房役をこなして下さり心強い限りでした。

この一年間の中ではオーストラリアからの留学生エマさんを受け入れ、その事業遂行にあたり、ホストファミリーをお引き受けくださった佐東丈介、高橋延幸、高杉尚男会員とご家族の皆様には言葉には言い表せないご苦労があった事と、大変感謝しております。会員皆様やそのご家族のご理解がなければ、この事業は成り立ちませんでした。また当時青少年交換委員長だった浅田会員、地区の担当

だった杉山会員にもご家族共にご協力いただき有難う御座いました。

9月にはガバナー公式訪問も何事もなく済み、少し気持ちが軽くなりました。

1月には無事に留学生のエマさんを帰国させる事ができ、ほっとした所に今度は、アメリカからのG.S.Eを受け入れました。幹事の高杉さんのご紹介でMOA美術館を訪れ、能楽堂の舞台裏など普段なかなか入ることのできない所を拝見させていただき、外国のお客様以上に興味深い一日を過ごさせていただきました。

6月には、チャーターメンバーであり又初代湯河原ロータリークラブ会長であった、ある意味湯河原R.C.を代表する人物であられた天野弘之会員が急逝されたことは断腸の思いでありました。

入会してわずか七年目に会長職を仰せつかり、未熟な会長として会員全員でのご協力により無事一年間クラブ運営ができた事を大変感謝しております。